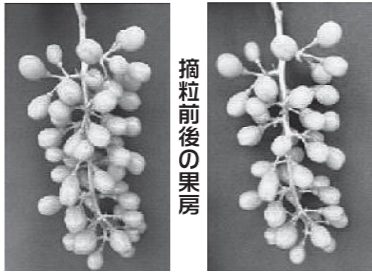




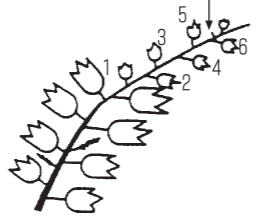
### 3. 摘 粒

- (1) **摘粒の時期**  
果房形を整え、粒揃いや果粒肥大を促進するため、満開後15～25日頃（7月中旬）から始め、果粒軟化期前（8月上旬）までに終える。  
シャインマスカットは、大豆粒大（7mm程度）頃までに終える。

(2) 摘粒の目安	品 種	果粒数
	スチューベン	70～80
	キャンベル・アーリー	50～60
	シャインマスカット	40～50



### 2 回目の摘心（6葉）



### 4. 2 回目の摘心

1 回目の摘心後に伸びた副梢の展葉枚数が8～9枚になった頃に行い、伸びた副梢の葉を6枚残して摘心する。副々梢は2 回目の摘心部位の先端のものだけを残して、他は全てかき取る。  
なお、これ以降も副々梢が伸びる場合は3～5葉で摘心を行う。

### 5. 病害虫防除

■ 薬剤散布（県どう防除暦：スチューベン基準より抜粋）

散布時期	薬 剤 名 と 倍 数	
	殺 菌 剤	殺 虫 剤
大豆粒大 （7月中旬頃）	ジマンダイセン水和剤	1,000倍
	又はアミスター10フロアブル	1,000倍
	又はストロビードライブフロアブル	2,000倍
	又はホライズンドライブフロアブル	2,500倍

- 注) 1 大豆粒大以降、展着剤は使用しない。  
2 ジマンダイセン水和剤（有効成分：マンゼブ）の年間使用回数は「2回以内」である。  
3 スチューベンで晩腐病の発生が多い園地では、小豆粒大（7月上旬頃）にベンレート水和剤3,000倍を特別散布する。  
4 シャインマスカットでは灰色かび病対策のため、アミスター10フロアブル又はストロビードライブフロアブルを選択する。  
5 ストロビルリン単剤のアミスター10フロアブル、ストロビードライブフロアブル及び、同じ系統の混合剤であるホライズンドライブフロアブルは、薬剤耐性の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。ただし、ストロビルリン単剤は年1回以内の使用とする。  
6 ハダニ類の発生が多い園地ではマイトコーネフロアブル1,000倍又はカネマイトフロアブル1,000倍を特別散布する。  
7 コガネムシ類の発生が7月下旬にみられる場合は、アグロスリン水和剤2,000倍、アディオフロアブル1,500倍、スミチオン水和剤40 800倍のいずれかを特別散布する。

※農薬はぶどう園以外、他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。



## 5～8月は「農薬危害防止運動」実施期間です

### 農薬の適正使用と隣接農地への飛散防止に十分気をつけましょう！

- 使い残した農薬などは、河川等へ絶対捨てないでください。
- 農薬を使用する場合には、必ず最新の「農薬登録情報」を確認してください。
- 農薬は鍵のかかる専用の場所に保管し、管理を徹底しましょう。

## \*おとうと\*

翌年度の生産を見据え、収穫後の防除を徹底しよう！

### 1. 収穫（晩生種）

適期収穫に努め、収穫遅れにならないようにする。また、灰星病やショウジョウバエ対策として、収穫前日頃を目安に有効な薬剤を特別散布する。

### 2. 雨よけ被覆資材の除去

樹体に対する悪影響を避けるため、収穫後速やかに除去する。

### 3. 施肥（礼肥）

樹勢維持と花芽分化促進のため、収穫後できるだけ早く施肥する。施肥量は年間施肥量の20%程度とする。

### 4. 病害虫防除

■ 薬剤散布（県おとうと防除暦：佐藤錦の基準より抜粋）

散布時期	薬 剤 名 と 倍 数	
	殺 菌 剤	殺 虫 剤
7月中～下旬 （収穫後）	オーソサイド水和剤80 又はオキシラン水和剤 又はチウラム剤	800倍 600倍 500倍
		スプラサイド水和剤 1,500倍

注) 褐色せん孔病（せん孔病）や、ハダニ類が発生すると早期に落葉し次年産の花芽充実に影響するので、収穫後散布を必ず実施する。

※農薬は、他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。



## 農作業中の熱中症に注意しましょう

～熱中症は適切な予防をすれば防ぐことができます～

- 暑さの感じ方は人によって異なります。高齢の方は特に注意が必要です。
- 皆で協力して、熱中症予防を呼びかけ合うことが大切です。
- 天候の変化が激しい時期ですが、高温が予想される日は、熱中症予防を忘れないようにご注意ください。

適切な温度・水分の管理で品質向上に努めよう！

## トマト

### 1. かん水と追肥

かん水は、午前8～10時頃に行い、7段花房開花期頃まではかん水量を一定（1株当たり1.5リットルを目安）とし、生育や天候を見ながらかん水の間隔を調整する（1日おき→2日おき）。ただし、予想最高気温が28℃を超える日は、1株当たり2リットルを目安とする。2本仕立ての場合は、側枝1本を1株とする。莖葉にしおれが見られたら、直ちに1株当たり0.7リットルかん水し、2～3時間してもしおれが回復しない場合は、再度0.7リットルかん水する（高温時は1株当たり1リットルを2回）。開花花房の上葉のねじれの有無を観察し、ねじれのある株が7割以下になったら追肥する。

### 2. 葉先枯れ（カリ欠乏症）対策

葉先枯れ症状は、根張りが悪かったり、土壌中のカルシウムなどが過剰になると、カリの吸収が妨げられて発生しやすい。また、高温により徒長した場合でも葉内のカリが欠乏して発生するので、予防としてメリット黄400倍を1段につき2～3日おきに2回、開花花房を中心に葉面散布する。症状が見られた場合は、カーボリッチ又はカリグリーン800倍を4日おきに2回、全葉に散布する。ただし、極端に草勢が弱い場合は使用を控える。葉先枯れは、灰色かび病の発生源となるので、枯れた部分は早めに摘除する。

### 3. 高温対策

遮光資材、ハウス塗布資材等を活用して、ハウス内の温度をできるだけ下げます。被覆タイプの遮光資材は、概ね11時～14時頃までの展張とし、かけっぱなしにしない。

### 4. 病害虫防除

曇雨天が続くと灰色かび病や葉かび病が発生しやすくなるので、予防防除に努める。高温乾燥でアザミウマ類、アプラムシ類、オオタバコガの発生が多くなるので、防除を徹底する。

## ほ場周辺や園地などの草刈作業が多くなる時期です 刈払機や草刈機の事故に注意しましょう！

- 作業の前に、草むらに潜む穴や切り株、石、空き缶などを点検しましょう。
- 保護具を身につけ、飛散防止カバーは外さないで作業をしましょう。
- 草詰まりの除去や刈払機を置くときは、必ずエンジンを停止しましょう。

## メロン

### 1. ネット発生後の管理

ネット発生以降は、最高気温28～30℃ 最低気温15～18℃を目安に管理する。ネット完成時は換気を十分に行い、日中しおれない程度にやや乾燥気味の管理とする。草勢をみながら、3～5日おきに3回程度、葉面散布を行う。

(例) 青 … 生育促進、葉色改善 (7-5-3)  
黄 … 着果促進、果実肥大 (3-7-6)  
赤 … 成熟促進、徒長抑制、花芽分化 (9-10-9)

成熟期の草姿・草勢は、収穫7～5日前で、「晴天日の昼間には少ししおれ、夜には回復するくらい」が望ましい。最低気温が20℃以上では糖度が上がりにくくなるので、外気の最低気温が15℃以上であれば、トンネルを夜間開放する。

### 2. 収 穫

着果後の日数、外観の変化、試食など総合的に判定する。タカミの場合、①結果枝の葉が徐々に枯れる、②果皮が濃緑から黄緑色に変わる、③ヘタの周囲が突起し、離層が形成される、の順に現象がみられるので収穫期の判定基準とする。

### 3. 果実の生理障害

- (1) **裂 果**  
果実肥大時、果肉の肥大に果皮の伸びが追いつかなくなって発生するが、着果から鶏卵大前まで・ネット形成期・収穫期の3つのステージが特に危険性が高い。収穫期の裂果は、開花後40日頃までの期間の乾燥・低温により肥大が抑えられた後、成熟期の潤沢な養水分吸収によって発生する。また、多肥や未熟な堆きゅう肥の施用で収穫期に草勢が強まった場合も発生する。対策としては、カルシウム剤の葉面散布や下葉・徒長枝を除去し、急激な肥大を抑える。
- (2) **発酵果**  
窒素・カリ過多、カルシウム不足、高温・照り込みによる草勢の低下、ホルモン着果、低温・乾燥による初期肥大の抑制などにより発生する。

対策としては、カルシウム剤の葉面散布、遮光を行う。

- (3) **腐敗果**  
病原菌によるものと、生理障害によるものと2つある。対策としては、病原菌の場合は、薬剤散布による予防、生理障害の場合は、発酵果と同様の対策を行う。

## \*花き\*

## キク

### 1. 今後の作業

輪ギクの上位葉のわき芽かきは、時期が遅れると摘み取った後の傷が大きくなるので早めに行い、摘蕾は、小豆大の頃に中心の蕾を残して行う。

### 2. 病害虫防除

白さび病、ハダニ類、アザミウマ類、ヤガ類が発生しやすい時期なので、早期発見、早期防除に努める。オオタバコガやヨトウムシ類の侵入を防ぐため、ハウスのサイドや出入口等に防虫ネット（4×4mm目以内）を早めに設置する。

## トルコギキョウ

### 1. 今後の作業

十分な換気に努め、可能な限り施設内の温度を下げる。好天が続く場合、短時間遮光（遮光率30～40%）し、施設内の急激な温度上昇を防ぐ。  
かん水は、発蕾期からは徐々に控える。地際から20cmくらいまでの側枝や主茎の頂花蕾（1番花）は、発生したら早めに除去する。また、出荷時不要となる蕾も早めに除去する。

### 2. 病害虫防除

上記キクを参照

## りんどう

### 1. 収 穫

収穫適期は、頂花の大部分が色づいた時で、気温が低い時間帯に収穫し、頂花から100cmのところを手で折り取る。株の養成のため、草丈が130cm以上の場合は、茎を30～40cm程度に残す。草丈が100cm以下の場合は、1株当たり2～3本残す。残した茎は花穂部分を折り取る。

### 2. 選別・調整

- (1) **収穫直後**  
花がしおれていない場合は、選別前の水あげは不要である。花腐菌核病、オオタバコガの侵入痕等の病虫害があるものを混入しないように選別し、長さ、太さが同様のものを10本1束とし、頂花をそろえて輪ゴムで束ねる。
- (2) **水あげ、箱詰め**  
きれいな水をバケツ等に10cm程度入れて、涼しい場所で吸水させる。4時間程度吸水させたら水から出し、立てて乾燥させておき、翌朝に箱詰めする。

町農業委員会では、毎年6月中旬から農地パトロールを実施し、遊休農地や、放任園等の発生防止に取り組んでいます。  
農地の貸借や売買については、町農業委員会へご相談ください。

## 【農業の相談はこちらへ】

農業についての各種相談を受け付けております。受付した内容は即時対応いたしますので、気軽にご相談ください。  
鶴田町農業支援センター 午前9時から午後5時 ☎22-2111（役場産業課）

～農事普及だよりは町ホームページにも掲載しております～

URL <http://www.town.tsuruta.lg.jp/kurashi/kurashi-nougyou/post-117.html>